

総務省グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース「地球的課題検討部会」資料

---

# 電子政府 eGaO 戦略

2010年3月12日

---

須藤 修（提出者）

山田 肇

電子政府勉強会

## 2015年の「eGa0」ビジョン

「行政の効率化」も大切ですが、これに加えて「国民に役立つ」ことが電子政府・電子自治体の生命線です。

電子政府・電子自治体は本来、「国民に多様な公共サービスをスマートに提供する」「国民のライフスタイルの変化に合った公共サービスを実現する」ためのものです。

国民目線で電子政府・電子自治体を考え直し、政府、自治体、民間の幅広い協力によって、利用した人が笑顔になる新電子政府「eGa0<sup>1</sup>」を5年以内に実現しましょう。

1: 電子政府をゼロから作り直そうという気持ちを込めてeGa0と名付けました。  
eGa0の0は数字のゼロですが、「エガオ」と読みます。

## ① 「まとめてお任せeGaO」の実現を。

府省に閉じた電子政府や、霞が関に閉じた電子政府は、縦割りで効率が悪く役に立ちません。

利用者が「したいこと」を指示するだけで各府省や全国の自治体が縦横につながり、最小の手間で手続きしてくれるスーパーワンストップ電子政府を作りましょう。

- 国、自治体、民間の連携を可能にするデータ形式の標準化
- 社会全体のデータが安全につながるデータ連携基盤の整備

## ② 「十分安心eGaO」の実現を。

セキュリティはもちろん大切ですが、過剰なセキュリティを追求した電子政府は使いにくく、役に立ちません。

利用するサービスや手続、やりとりする情報の内容に合わせて、適切な水準の事故防止対策を実施し、万が一の事故発生時には最良の対応ができる、スマートセキュリティ電子政府を作りましょう。

- サービスや手続ごとに実施するセキュリティ対策についての社会的な理解、共通認識の形成
- 政府、自治体、民間、国民が広く活用できる多様なセキュリティ基盤の整備
- 事前対策だけでなく、事後対応まで含めた総合的な取組の推進

### ③ 「みんなが使えるeGaO」の実現を。

シニアやチャレンジ<sup>2</sup>が使えない電子政府は、これからの日本では役に立ちません。

電子政府のメリットを国民誰もが受けられるように、ハンディのある人やITが苦手な人でも笑顔で利用できるバリアフリー電子政府を作りましょう。

- 利用者視点に立ったシステム設計・開発の徹底
- 携帯電話、デジタルテレビ、コンビニ端末等、身近な機器から利用可能に
- チャレンジが自ら利用できる電子政府サービスと利用技術の提供

2: 心身に何らかの障害やハンディを持つ人々のことを「挑戦すべきことを持つ人々」という含意で「チャレンジ」と表現しています。

## ④ 「何でも分かるeGaO」の実現を。

情報が不足していたり、探しにくい電子政府は、役に立ちません。政府や自治体の情報公開を進めるだけでなく、国民に役立つ情報、知りたい情報をストレスなく見つけられる日本版オープンガバメント<sup>3</sup>を作りましょう。

- 行政の情報を全て電子化し、情報公開はもちろん、様々な利活用ができるようなルールの確立
- 国民が効率的に情報にアクセスできるように、国民に分かりやすい言葉での、情報リンクと検索機能の強化
- 様々な政策分析や将来予測、シミュレーションのために、蓄積した情報を適切に活用できるしくみの整備

3: オープンガバメントは、米国オバマ政権が打ち出している電子政府のコンセプトで、IT活用により政府のオープン性、透明性、協業性を高めることを目指しています。

## ⑤ 「民力活用eGaO」の実現を。

官の基準や常識だけで考えた電子政府は、ひとりよがりでは役に立ちません。

民間に任せられる部分は民間に任せ、そのノウハウを上手に生かし、投資対効果を最大化した官民ハイブリッド電子政府を作りましょう。

- 民間や自治体の知恵を導入した電子政府検討体制の確立
- 民間が提供する使いやすいシステム・サービスが自動的に行政につながる、官民が安全かつ自在に接続する電子政府・電子自治体システムの整備
- 民間の資源、プラットフォームの有効活用
- 行政情報の安心・安全な利活用における適正なルールの整備

## ⑥ 「柔軟に姿を変えるeGaO」の実現を。

融通が効かず、政府や自治体の業務を固定化する電子政府は役に立たないどころか行政改革、地方分権の障壁になります。

ニーズの変化や技術進歩にに従って、スピーディに業務や機能を組み替えられるクラウド型<sup>4</sup>電子政府を作りましょう。

- 使われない電子申請メニューを廃止し、効果の大きい機能に集中投資
- 電子政府・電子自治体の中核機能の標準化とモジュール化
- 機能追加・変更、共同利用、運用移管等が容易な共通システム基盤の構築

4: クラウド・コンピューティングとは、ネット上のサーバ等に必要なアプリケーション群を用意して共同利用する新しいIT利用方式です。米国、英国では電子政府にクラウドを活用する方針を打ち出しています。ここでは、プログラムの変更によって柔軟に機能を変えられるクラウド・コンピューティングの特性を生かしたシステムづくりという意味で「クラウド型」と表現しました。



## ⑦ 全国民に「マイ eGaO」の提供を。

国民が必要とする公共サービスや情報は一人ひとり違うので、「私」に合わせてくれない電子政府は、役に立ちません。

「私」が必要とする情報やサービスを必要な時に私の手元に届けてくれるコンシェルジュ(執事)型電子政府を作りましょう。

- 国民一人ひとりの状況や希望に応じて公共サービスを案内・提供する「マイ・コンシェルジュ」機能の提供
- マイ・コンシェルジュで個人情報等を活用する際のルールとセキュリティ基盤の整備
- 政府や自治体が持っている私の情報を私が調査できるしくみ（マイ・データチェック）の整備

## eGa0実現に向けた本気のアクション

このような画期的な電子政府を作るには、政府の「本気」が必要です。

世界各国は、電子政府の整備に本気で取り組んでいます。今、次のような「本気」を出さないと、日本の電子政府は世界に取り残されてしまいます。

私たちは、新電子政府「eGa0」実現のため、次のような本気の取組を政府に求めます。

# eGa0実現に向けた本気のアクション

今、必要な本気のアクション

## 本気その1

- ・各府省の電子政府関係の部署をひとつにまとめ、政府全体の電子政府構築とそのための技術研究を統括する「eGa0推進局」の設置。
- ・電子政府構築全体に責任と権限を持つ政府CIO と、技術の進歩に目配りし電子政府への適切な技術の導入に責任と権限を持つ政府CTO の設置。
- ・政府CIO、CTOをはじめ、eGa0推進局の中核人材として、女性を含む民間人の登用。

CIO : Chief Information Officer 情報化統括責任者  
CTO : Chief Technology Officer 技術統括責任者

## 本気その2

- ・電子政府の構築と運用が適切に行われているか、投資効果を含めて監視・評価する政治主導のチェック組織「eGa0チェッカーズ」の設置。

## 本気その3

- ・新電子政府構築の目的、将来の電子政府サービスの姿、提供されるメリット、必要なコスト等を明確に示したeGa0ビジョンの策定。
- ・いつまでに何を実現するかを明確にしたeGa0ロードマップの策定。

## 本気その4

- ・「電子データが主で書類が従」、「国と地方で情報共有・連携」へ、公文書作成や行政手続の考え方を根本的に転換。
- ・国民、企業、行政職員のそれぞれにとって良好な利便性と、IT活用による行政サービスの最大効率を目指す「新電子政府法(eGa0法)」の制定。

## 本気その5

- ・個人や法人をきちんと識別して、あらゆる公共サービスを円滑・適切に提供できるしくみの整備。

## 私たちからのメッセージ

これらの本気の実組によって新電子政府「eGa0」を実現し、国民誰もがスマートに、気持ち良く、充実した生活を送れるような社会を作っていきます。

2010年3月

### 電子政府勉強会メンバー

須藤 修

山田 肇

足立 佳彦

内田 斉

上瀬 剛

牟田 学